

14	岡崎	上地小学校	イワタ	カオル
			氏名	岩田 かおる

分科会番号	12a	分科会名	自治的諸活動と生徒指導
-------	-----	------	-------------

1 研究テーマ

認め合いを通した、社会性、協調性、課題解決能力の育成

～5年 特別活動「笑・輪・話・和・羽っしょいフェス」の実践を通して～

2 研究概要

(1) 主題設定の理由

5年4組の級訓「笑(わ)っしょい!」の「わ」には、担任の「みんなで力を合わせて乗り越えてほしい」という願いと、児童の考えた「笑・輪・和・話・羽」の思いが込められている。

本学級は、元気な男子が目立つ一方で、静かな男子や控えめな女子が多く、学級内がなかなか一体とならなかった。4月当初は、女子を中心に「誰かがやってくれる」という空気があり、授業や学級活動でも主体的な発言や互いに協力する姿は少なかった。また、元気な男子は自分の思いを優先し、相手の話を十分に聞けない場面も見られた。学級全体的に仲の良い友達同士の関わりはあるものの、それ以外の児童との関わりは少ない状況であった。

5月のWEBQUでは、「満足群」と「非承認群」に二分化され、承認や関わりスキルの得点が低い児童が多かった。そのため、日記や学級通信などを通して児童を認める言葉掛けを続けるとともに、学級会では児童の自己決定を大切にしてきた。その結果、声を掛け合い協力する姿が少しずつ増え、児童の学級会での振り返りからも、級訓に近づいているという実感も見られた。しかし、9月のWEBQUでは満足群は増えたものの、「友達から認められている」という項目の得点は低く、教員からの承認だけでは自己有用感は十分に高まらないことが分かった。

特別活動では、多様な他者と協働し、課題を解決する力の育成が求められている。しかし、学級会では発言する児童が固定化し、決定した取り組みに対して消極的な児童は、学級会での決定事項に参加する姿勢が不十分であった。そこで、級訓の実現を目指して「笑・輪・話・和・羽っしょい!フェスティバル(笑フェス)」を実施することとした。グループでブースを企画・運営し、互いに体験し合う活動を通して、自然な関わりを生み出し、状況に応じて生じる課題を協働して解決する力や自己有用感、互いを認め合う関わりスキルを育てたいと考えた。

(2) 目指す児童像

主題に迫るために、次のように目指す児童像を設定した。

認め合いを通して社会性を育み、協働的に課題を解決することができる子

(3) 仮説と手立て

目指す児童に迫るため、次のように仮説と手立てを設定し、検証していく。

仮説Ⅰ

笑フェスを企画、準備、運営していく活動で児童が役割をもち、振り返りの場で互いを認め合えば、集団の中で自分が役に立っているという自己有用感がもてるだろう。

仮説Ⅱ

笑フェスを企画、準備、運営していく活動で、級訓や児童の願いを大切に進め、活動中の児童同士を教師がつなげれば、児童自身の力で課題を解決する姿になるだろう。

仮説Ⅰに対する手立て

- 児童が関わり合いながら活動に臨むために、学級活動で行っている会社活動のメンバーをもとに笑フェスの企画・準備・運営に取り組めるようにする。(活動を通しての手立て)
- 活動において自己有用感を感じ、グループの一員としてよりよいものを作り上げたいと意欲を高めるために、「笑話(わわ)コメカード」や「笑羽(わわ)コメカード」を送り合って、振り返りの場で社長は社員の活動を褒め、社員は社長の活動を褒めるようにする。また、笑フェス後には自分やクラスの成長をふりかえる「我笑レター」を書くようにする。
「笑話コメカード」…相手が笑顔になるよう、相手のよさを褒めて伝えるカード。
「笑羽コメカード」…相手が笑顔になるよう、自分が頑張りたいことや次時に挑戦したいことを書くカード。
「我羽レター」…笑フェスの振り返りと自分の成長を書く。

仮説Ⅱに対する手立て

- c. 児童が決めたポイントに立ち返りながら活動を進めるために、笑フェスでブースを企画する際に、どんなブースになると成長につながるか話し合えるようにする。
- d. 児童が協働的に課題解決をし、よりよいブースにしていけるために、兄弟会社を決めたり、同じ課題を抱えている会社、参考になるアイデアをもっている会社を教師が紹介したりして児童同士をつなぐ。また、課題解決が難しい場合は、学級会議の場を設け児童の力で課題解決できるようにする。

(4) 抽出児童について

児童Aと児童Bを抽出児として、手立ての有効性を検証していく。

【児童Aの実態と教師の願い】

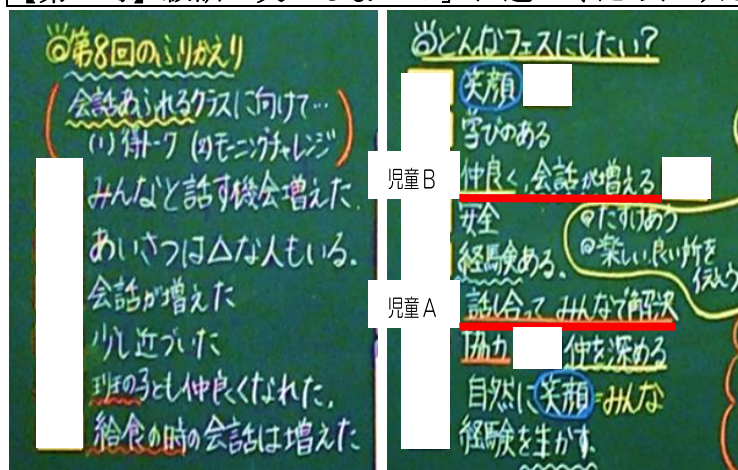
児童Aは、友人関係に恵まれ、周囲の状況をよく見て判断できる。一方で、難しい課題に対しては「面倒くさい」と考えることをやめてしまい、指摘されたり思い通りにならなかったりすると言い返してしまうことがある。本実践を通して、自分の感情をコントロールしながら人と関わり、課題にも粘り強く取り組めるようになってほしい。

【児童Bの実態と教師の願い】

児童Bは、親しい友達には自分の考えを伝えられるが、自分本位になったり、相手が変わると考えを伝えたり質問したりすることが難しい。会社活動では社長（班長）として全体をまとめる役割を担っている。本実践を通して、自分の思いを伝えるだけでなく、友達の考えを受け止めながら課題を解決する力を育ててほしい。

3 実践

【第1時】級訓「笑っしょい！」に近づくためにみんなで挑戦したいことを考えよう



資料1：これまでの学級での取り組みと、どんなフェスにしたいかの板書記録

ばしたいかについても話し合った。

児童Aは「話し合って、みんなで解決できるようになりたい」、児童Bは「もっと仲良くなって会話を増やしたい」と発言し、級訓の実現に向けた思いを共有した。（資料1）

話し合いを通して、笑フェスで目指す姿を①みんなが笑顔になる、②助け合い認め合えるようになる、③みんなで協力し解決できるようになる、の3つにまとめ、「笑フェスで成長したい3カ条（笑フェス3カ条）」として掲げ、活動をスタートした。

【第2時】「話・輪・和・羽・笑っしょい！フェス」で大切にしたいことを考えよう（手立てc）

相手意識をもって企画することで、「笑フェス3カ条」に近づくと考え、第2時では、出店ブースの基準を話し合った。前時で掲げた「笑フェス3カ条」をもとに、①みんなが笑顔で楽しめるもの②会話がいっぱいになるもの③協力して取り組めるものと意見が出た。立ち回りやすいものになるよう、①～③の文字から「楽笑会協（たえかき）の極意」と学級で名付けた。

【第3時】笑フェスに出店するブースの計画を考えよう（手立てb、d）

笑フェスに向けた計画が始まり、「楽笑会協の極意」をもとに各会社でブース内容や役割を話し合った。

児童Aの会社は、射的を行うことにした。児童Aは意欲的に段ボールでガチャガチャを作ってきたが、それをどう活用するかで意見が分かれ、話し合いが停滞した。

資料2：ブースの方向性を考えていく児童Aと社長

T：このガチャガチャ使っていく予定なの？
 児童A：カプセルの中に、1等2等…って書いて当たりくじみたいにする。
 社長：でもさ、壊れたら大変だから展示するで良くない？
 児童A：でも、そうすると楽しくないじゃん。
 社長：ガチャに時間かかるし。
 児童A：(納得いかない様子)
 T：自分の思いを伝えるのも大切だけど、ぶつ切あっては進まないよ。
「笑フェス3カ条」で決めた成長したいことってなんだった？ブースを考えていく上で一番大事なのは、誰の笑顔なの？
 社長：じゃあ、くじ引きみたいにして、やってみよ。くじの方が楽しいよね。
 児童A：じゃあ、特賞も作るのはどう？
 社長：じゃあ、Aはガチャの準備と景品担当して。
 児童A：わかった！

【第4時】役割に合った準備を進めよう (手立てc、d)

第4時は、前時で決めた自分の役割をもとに、準備を行った。第1時で児童が決めた「笑フェス3カ条」の③みんなで協力、みんなで解決を大切にして、児童自身が解決策を見つけ出せるよう、兄弟会社にアドバイスをもらいに行くことや、教師が社長同士をつなげて、アイデアやアドバイスをもらえるようにした。もらったアドバイスをもとに社長が社員に相談をしたり、話し合ったりすることで、自然とコミュニケーションが生まれ、自分たちでよりよいものにしていこうと解決策を考えていた。

みんな、あのさあ〜。

会社 まもクラ

好きなキャラクターを教えてください。折り紙の景品として使う予定です。(ぐたいてきにおねがいします)

資料4：児童Aがスクールタクトを用いて、学級に質問した際のやり取り

コメント

10/30 12:45
ミッキー
いいね! 返信 削除

30 12:46
ポケモン
いいね! 返信 削除

10/30 12:46
ピカチュウ
いいね! 返信 削除

資料5：話し合いながら問題を解決していく児童B

児童B：これ段ボールだけだと立たないんじゃない？
 持っている人がいるよ。
 社員：支えを作ればいいんじゃない？
 T：〇〇会社に相談してみるの？
 児童B：(相談をしに行く。) わからないって言われた。
 T：そうか、じゃあ使えそうなものがないか教室や学校見まわって調査してみたら？
 児童B：(休み時間に社員を連れて見に行く。)
 児童B：あそこの、ハンガーラックに段ボール掛けたらやれそう。
 T：いいねそれ！それ使ってやってみなよ。
 児童B：上の方は、ブランケットかけて目隠しでもいいんじゃない？〇〇持ってこられる？

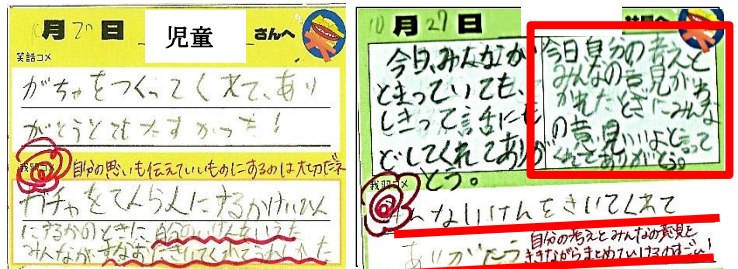
教室で使っているハンガーラックを使うことになり、目隠しのために必要な物を考え、次の日に持ってこようと分担していた。(資料5)

【第5時】「楽笑会協の極意」に立ち返って準備をしよう (手立てb、c)

隙間時間を使って準備を進め、第6時のプレ笑フェス前に第5時を実施した。本時では、相手意識をもった企画になっているかを見直すため、「楽笑会協の極意」を振り返った。

社長も自分の考えを強く主張するため、児童Aはいら立つ様子を見せた。そこで、「笑フェス3カ条」と「楽笑会協の極意」に立ち返るよう促すと、互いの意見を聞きながら方向性を決めることができた。(資料2) 児童Aは社長への「笑羽コメカード」に(資料3)「意見を聞いてくれてありがとう」と感謝を伝えた。

児童Bは、社長として話し合いを進め、「楽笑会協の極意」を意識したペアでポーズをそろえるゲームを企画した。「会(会話)」の要素については兄弟会社に相談し、「ヒントを出し合う」という工夫を取り入れることにした。



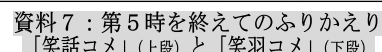
資料3：児童Aの「笑羽コメ」(左)と児童Aが社長に対して送った「笑羽コメ」

児童Aは、自分の作ってきたガチャの方向性が決まったため、特賞の景品をどうしていくかを考えていた。始めは、会社内で話し合っていたが児童Aが、「クラスの子に何がもらってうれしいか聞いてもいい？」と相談に来た。了承すると、級友に聞いて情報を集めていた。また、日々の日記のやり取りでも、共同閲覧を可能にしてやり取りができるようになると、景品についての情報を集め参考にしていた。

(資料4)

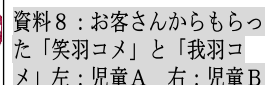
児童Bは、自身が社長ということもあり、準備の進捗状況の把握とアドバイス役を任されていた。ポーズ合わせゲームで使う、仕切りをどうするとよいかチームで話し合っていた。始めは段ボールで仕切りをつくる予定であったが、思うように立たないのではないかと意見が出た。「他社に相談してもいい方法がない」と言っていたので、「学校や学級を見て使えそうなものない？」と問いかけると、社員で見渡しながら「あれ使えそうじゃない？」と話し合い、

第5時には、どの会社も困ると兄弟会社へ相談し、児童同士で自然に解決策を考える姿が増え、教師が仲介する場面はほとんど見られなくなった。



手立て (b、c)

児童Bは、「説明がわかりやすかったが、会話と協力が少なかった」とアドバイスを受けた。丁寧な接客には手応えを感じていたものの、一人で来た客への対応が難しく、会話が十分にできなかったことから、「あんまり楽しくできていなかった」と課題を振り返った。**（資料8・9）**プレ笑フェスを通して、友達から認められたり助言をうけたりする経験が自分たちの活動を見直すきっかけとなり、よりよい活動を目指して協働的に改善しようとする姿につながった。



プレフェスどうだった？

自分的にはどうだった？
思うようにできたこと、自信がつい
と、思うようにできなかったこと、
フェスで感じたことはあったかな？

★楽笑会協の極意
 楽笑：お客さんは楽しんで笑顔になっていく？店員さんは？
 貴：店員とお客さんでの食話。お客さん同士での食話。
 貴：スムーズな案内。わかりやすさ。取り極め時間は十分か。

今日やってみて、お客さんが説明やせっちゃんが良かったと言われたので、手堅いもあった。だけど、自分とお客さんとの会話があんまりなかったし1人だからスムーズに店が回らなかったり自分もやって楽しくはなかったからまだやりきれてないこともあった。
混乱してあんまり…楽しくできていなかったから本番が少しかけ…

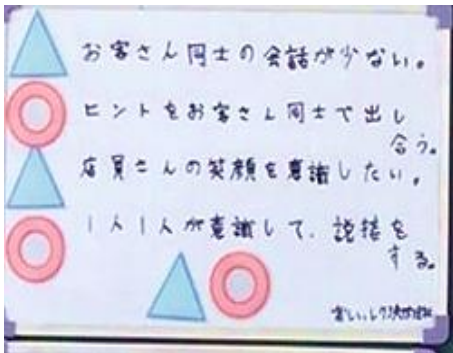
資料9：日記での感想 左：児童A 右：児童B

児童Aの会社は、射的に集中すると会話が減ることは受け入れ、その代わり受付や射的中の応援、高得点を取るためのアドバイスなど、客へ積極的に声を掛ける工夫を考えた。また、ガ

チャでは、より笑顔になってもらえるよう特賞の景品を充実させることにした。

児童Bの会社でも、「笑顔」と「会話」が課題となった。プレ笑フェスでの経験を基に、笑顔や声掛けを意識するとともに、「今どんな感じのポーズ？」とお客さん同士が相談できるルールに改善し、自然な会話が生まれる工夫を取り入れた。(資料10)

一方で、児童Bは一人での運営に不安を感じていたが、会社内では解決策が見つからなかった。そこで別日に学級会議を開き、学級全体に相談したところ、「2人で来てもらう」「説明を書いた看板を作る」などの意見が出された。児童Bはそれらを取り入れ、「2人で来てね」と書いた看板や説明書きを作成し、不安の解消につなげた。(資料11、12)



資料10: 児童Bの会社の問題点△と改善点○

資料11: 一人での運営に不安を感じる児童B

T: 運営が一人で不安っていうことは、会社の子達に相談した?

児童B: まだ...

T: 相談すればいいよ。
みんなで協力、みんなで解決じゃん。

児童B: うん。(相談をする)

社員: うへん。

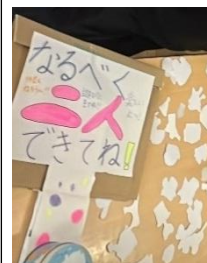
T: 運営する人数を変えることは厳しいの?

児童B: そうすると、一人になる子が出てくるから...社長だし...

社員: ...

T: じゃあ、人数が同じくらいの他の会社にも聞いてみよう。

児童B: 聞いてきたけど、他の会社は困っていないっていわれた。



資料12: 学級会議を経て、児童Bが作った看板

【第8・9時】話・輪・和・羽・笑っしょい! フェスを開催して、

『笑っしょい!』に近づこう (手立てb)



資料13: 景品担当だけでなく、射的の運営も行い児童A

笑フェス本番が開催され、前時でアップデートしたことをもとに、本番に臨んだ。

児童Aは、お客さんの目を見て「すごい!」「おめでとうございます〇等です!」と盛り上げながら運営に励んでいた。(資料13) フェスの後半にガチャが壊れてしまい、修理がうまくいかずイライラした様子を見せていたが、「お客さんがいっぱい来てくれた証拠だね。」と伝えると、「そういうことだね。じゃあ、いいことだ。」と言って気持ちを立て直していた。

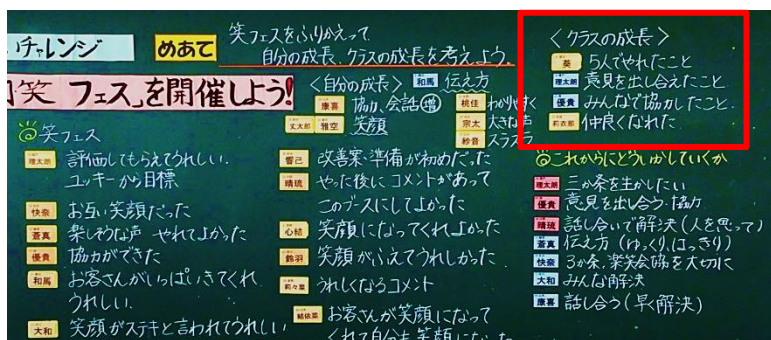
児童Bも、前回不安だった点を学級会議で取り上げたことにより、学級みんなが児童Bの状況を



資料14: 笑顔で笑フェスに臨む児童B、ポーズがそろい喜ぶ児童

把握することができた。また、本人が作った看板も効果があり、お客さんが2人ペアで来てくれて、安心した様子で運営をしていた。さらに、改善点で運営側が笑顔心をかけ、盛り上げるということを意識していたこともあり、仕切りが外された時に、お客さんが顔を見合わせて笑顔になる瞬間や、ポーズがそろい喜び合う瞬間も見られ、「楽笑会協の極意」をもとに、考えられた思いのつまったブースになった。(資料14)

【第10時】笑フェスを通して自己と学級の成長をふりかえろう (手立てb)



資料15: 笑フェス後の振り返りの板書。

第1時から笑フェスまでを振り返り、自分や学級の成長を振り返った。笑フェス本番を迎えるまでに、それぞれの時間にどんなことを考えながら取り組んできたかを児童と話し合いながら、活動を振り返った。

「意見を出し合えた」「協力してやった」「自分たちでできた」「仲良くなった」と学級の成長を感じるフェスになった。(資料15赤枠) 児童自身の笑フェスの振り返りと成長は、「我

笑レター」(資料16)と称し、自分に手紙

